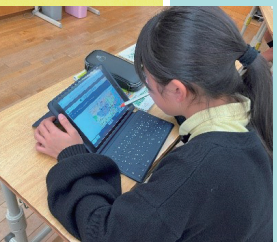
活用事例
3

デジタル版「地図マスターへの道」が導く地図帳の魅力



成蹊小学校 教頭　内川 健

学校紹介
東京都武蔵野市にある大正４（1915）年創立の私立小学校です。成蹊大学･成蹊中学高等学校と同じキャンパスにあり、一貫連携教育を行っています。小学校を含む成蹊学園は、ESDやSDGsの理念を含めた教育活動が評価されたことにより、2019年よりユネスコスクールに加盟しています。

1　地図帳で謎が解ける！

教室には、地図帳を眺めながら楽しそうに各地の特産品や地名を探している子どもがいませんか？ そんな子どもたちの姿を見ると、教室の中でも地図帳を活用して、もっと日本や世界のことを知ってほしいな、といった想いを抱く先生も多いのではないでしょうか。

ある時、クラスの子どもが「地図帳は謎解きの本を読む時と同じおもしろさがあるんだ！」と教えてくれました。地図帳の中にある一つ、二つのヒントを手がかりに、問題の答えをあれこれと考えていく楽しさがあるからだと言います。地図帳を読み解くことで、「なるほど、そういうことだったのか」というような、**子どもたちの「？」が納得に変わる瞬間**がたくさん生まれるのでしょう。地図帳を積極的に使っていくことで、どの先生にもこうしたおもしろい感覚を味わってほしく思います。

とはいえ、地図帳を使って、「どのように子どもたちに教えていけばいいのかな？」と悩む先生も同じく多いと思います。本稿で紹介する地図帳に掲載されている**「地図マスターへの道」**は、子どもたちの興味・関心の赴くままに、楽しく取り組める地図の問題が用意されています（ 図１ ）。**授業の中の中心発問にもつながる問題**がたくさん取り入れられています。したがって、「地図マスターへの道」を使えば、「納得した！」「分かったよ！」に変わる瞬間を、授業の中でつくり出していくことができます。先生方の**授業づくりや教材研究にも参考になる問題**がそろっているのです。

図１ デジタル版「地図マスターへの道」第１問

学習用の地図帳には、多くの情報が盛り込まれている。「地図マスターへの道」は、問題という形で、それらの地図情報の一つひとつに注目させることで、地図を読み解く方法を自然に身につけさせていくことができる。

2　デジタル版「地図マスターへの道」で、もっと地図帳が好きになる！

私は、クラスの子どもたちに自学自習の一環として、地図帳の「地図マスターへの道」に取り組むように声かけをしています。「時間を忘れてやってきたよ」とその成果を見せてくれる子も多いです。

ですが、いくつか悩ましく思えることがあります。**①確かな理解と社会的事象の見方・考え方を身につけるためにも、一回解いて終わりではなく、繰り返し問題に挑戦してほしいということ。②子どもの問題への取り組みの進捗状況と、どのような問題につまずいているのかを把握するのが難しいこと。**以上の２つです。

今回、第５学年の教室でデジタル版「地図マスターの道」を試す機会がありました。**デジタル版は、教師の悩みを解決してくれる以上に積極的に使っていきたいツール**であることが分かりました。デジタル版で学んだ子どもたちが、口をそろえて「おもしろかったし、すごく勉強になった！」と声を上げていたのも印象的です。子どもたちから多く出された感想に基づいて、何がどのように楽しくて学びとなったのかを、以下の３つのポイントにまとめてみました。

3　デジタル版「地図マスターへの道」をおすすめする３つのポイント

① ゲーム感覚で問題を解くことができる！

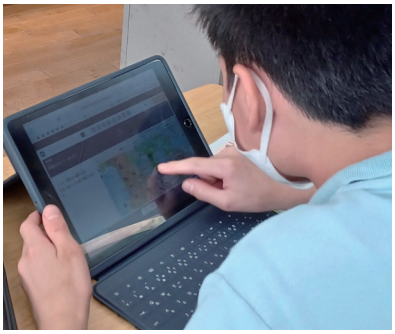
問題を解き終わるごとに方位磁石や記号などの**アイテム**を獲得できたり、「地図見習い」「地図マスター」などの**称号**をもらえたりと、**レベルアップしていく楽しさ**があります。問題が解けたことは、地図帳から事象を読み取れるようになったことだと実感できる要素がたくさん用意されています。

ある児童は、**「遊び感覚でやるだけで、日本や世界のこと、知らなかったことが一瞬で覚えられていいなと思いました。レベルが上がっていくにつれて難しくなるのがゲームっぽく、遊び感覚でできることがおもしろかったです。アイテムを集めたり地図マスターにレベルアップしたりしていくのが楽しかったです」**と感想を出してくれました。

図２　デジタル版「地図マスターへの道」で用意されているアイテムやお話

② 繰り返しチャレンジできる！

デジタル版「地図マスターへの道」は、問題がレベル別で収録されており、取り組む学年を問わず、**解きやすい問題からより高度な問題へ**と進んでいく流れになっています。つまずいた問題を確実に正解しないと次のレベルに進めませんが、間違えてしまった場合でも丁寧な解説と問題のヒントを活用しながら**何度も解き直す**ことができます。それが子どもたちの**「分かった！」「こういうことだったのか！」**といった言葉に表れる学びの充実につながっていくのだと思います。



ある児童は、**「苦手な日本の東西南北の島について問題が出ているおかげで復習することができてよかったし、間違えても再び取り組めることができて理解できた。問題がレベルに応じて進んでいくのがおもしろかった。間違えているところの説明も分かりやすく、ヒントもあるのが分かりやすい」**と感想を出してくれました。

図３ 問題中にある「ヒント」と「こたえ」にある「せいかい」

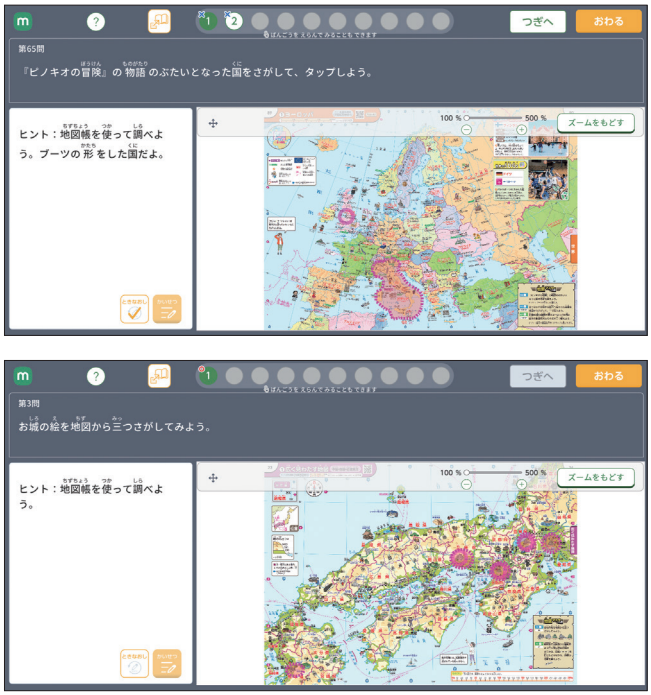


図４ 自分で示した線や〇と正解がすぐに比較できる

③ 自動判定機能ですぐに答えが分かる！

問題にチャレンジする子どもたちから、「あっ、島の漢字を間違えた。正しい漢字はこれだったのかあ」「ブーツの形をした国はイタリアのことなのか」そんな言葉が聞こえてきました。

問題に答えたら、**すぐに答えが分かる**ところも子どもたちのお気に入りです。線をなぞる問題や〇で囲む問題などでも、自分の示した線や〇が正しい位置をたどれていたか、示していたかどうかが分かります。**自動判定機能**は、児童の**すぐに知りたいという気持ち**に応えてくれます。

ある児童は、**「正しく答えられたかがすぐに分かり、正解が分かる楽しさもあります。厳しく採点されるので、どこが悪かったのかがすぐに分かったので、自分がどうして間違えるかも分かり、苦手を克服できそうです」**という感想を出してくれました。

4 遊び心をくすぐるデジタル版の仕掛け

デジタル版の「地図マスターへの道」には、教師と子どもたちの遊び心をさらにくすぐるような、楽しい仕掛けがたくさんありました。デジタル地図帳での取り組みは、紙の地図帳と比べると、教師の側から見てもいくつかの点でメリットを感じます。

一つ目は、今まで学習への取り組みに対しては、教師がそのモチベーションの維持を担ってきたはずです。ですが、デジタル版では、キャラクターやアイテムなどの報酬やゲーム感覚で取り組めるということが、**子どもたちの学習への動機づけ**になっていくと感じました。

二つ目として、デジタル版では子ども一人ひとりの**学習の達成度がすべて自動的に集計**されます。教師が学習状況をつかむことができ、**子どもたちを評価することが容易**になります（ 図５ ）。この評価は子どもの頑張りを認めていくことのみならず、子どもの**学習のつまずきや、理解度を把握**することができるため、そこに大きな魅力を感じます。

（授業風景の画像はすべて筆者提供）

図５ 管理画面に表示された児童の学習ログ

「地図マスターへの道」そのものは、教師が子どもたちに発問したい問題がそろっています。社会科の授業や朝の会などで使えば、隣どうしで相談しながら問題を楽しく解いていく姿も見られます。一方、デジタル端末を１人１台手にしている子どもたちの**自学自習の学び**の一つとしても、デジタル版に取り組んでみてほしいと感じています。また、学習のデジタル化の利点である**個別最適な学び**につながる点も魅力といえるでしょう。ぜひともデジタル版「地図マスターへの道」を試してみませんか？

ワンポイント解説

「地図マスターへの道」で地図好きな子どもを育てたいですね！

北陸学院大学　村井 教授

国語で「漢字が好き！」、算数で「計算が好き！」と同じように社会で「地図帳が好き！」。そんな子どもを育てたいという教師の思いがひしひしと伝わってきます。好きになるということは、**能動的になる**ということ。そのための仕掛けが「地図マスターへの道」なんですね。読者の先生方も一度は「地図マスターへの道」と子どもたちを出会わせてみませんか。